

市制施行60周年記念

市民の皆さんの提案から

新しい「おおたけのうた」

が生まれました。

大竹を拠点に活躍する人気アーティスト・二階堂和美さん作詞・作曲による大竹の新しい歌。

”賑わし企画集団「Oh!バンブー倶楽部」が手掛ける公募による市のイメージソング・応援ソング。

市制施行60年の年に新しく生まれる二つの歌が、大竹のまちを彩り、盛り上げます。

伴奏で参加した大竹市民吹奏楽クラブ
山口 光江さん(西楽3) 坂戸 泰明さん(和木町和木)



「初めは不安もありましたが、終わった時は充実感がいっぱいでした。」とクラリネットを担当した山口さん。「参加できたのは名誉なこと。いつまでも歌い継がれていってほしい。」と想いを語られていました。テナーサックス担当の坂戸さんは「二階堂さんの大竹への想いがあふれた、明るくて楽しい60周年にふさわしい歌。あふれるハートを伝えていきたい。」と熱く語ってくださいました。

大竹の歌を故郷・大竹で、市民の皆さんと作ることを提案してくださった二階堂さん。
レコーディング(録音)は、彼女の母校である大竹小学校で行われました。
伴奏を大竹市民吹奏楽クラブの皆さんが務め、ひかり児童クラブの子どもたちがコーラスで参加するなど、まさに市民の皆さんの力で一つの曲が生まれました。
完成した曲は、8月31日にアゼリアホールで行われた市制施行60周年記念式典のステージで披露されました。

「大竹で生きている」はたくさんの方の力で生まれました。



今回の企画を提案した
篠原 良一郎さん(玖波6、映像作家)

大竹に良い「歌」があって、その歌がまちのイメージになれば素敵だなと思い、二階堂さんという著名な方がいらっしゃることもあってこの企画を提案しました。主に動画制作の仕事をしているので、歌のプロモーションビデオなどを作成し発信すれば、全国に大竹市をアピールできると思ったのです。



大竹小でのレコーディングや子どもたちの合唱など、その工程は想像以上に素晴らしく、大竹が世界の中心になったと言えるほど発信力の強い曲ができたと思います。撮影に参加させていただき、市の歴史に残るものができて嬉しいです。

夢や希望に向かって努力する人とそれに賛同する人たちの姿は強く人の心を揺さぶります。今後この曲を聴いて育つ子どもたちはもちろん、曲に触れた全ての人びとに感動を与え、また市民の皆さんも市の誇りとして語り広めていってほしいです。

お知らせ

★制作過程を収録した動画を市ホームページ・フェイスブックに掲載しています。また、市制施行60周年記念式典でのステージの模様を収録した動画も併せて掲載する予定です。

★9月1日(月)18時に、防災行政無線で「大竹で生きている」が市内全域に流れます。

「大竹で生きている」

「大竹市の新しいイメージソングが誕生」
これまでの大竹を創ってきた方がたへの感謝とともに、これからの大竹をみんなで創っていくという想いを込めて、わがまちブランドを目指すまちの将来像「笑顔・元気がやく大竹」をテーマに、大竹在住のアーティスト・二階堂和美さんに歌を作っていただきました。



二階堂 和美(にかいどう かずみ)

大竹市元町在住。昭和49年生まれ。多彩なジャンルの音楽と融和する歌声が多くファンに愛され、全国各地でライブを行う。昨年公開のスタジオジブリ映画『かぐや姫の物語』の主題歌「いのちの記憶」を担当。NHKの子ども番組や小泉今日子さんへの楽曲提供などのほか、小方学園の学園歌を作曲するなど、幅広く活動中。

名所や地名を歌った曲は、
石本美由起先生の「大竹音頭」など良い歌がいくつも
あります。私は、今ここで
生きている私たち自身の歌
を作りたいと思いました。
大竹で生まれたら、お嫁に
来たり勤めに来たり、そう
いう巡り合わせた縁を肯定
的に受け入れられるように、
大竹に関わる全ての人に
「ああこれは自分の歌だ」
と思ってもらえるように
作った曲です。2番の「今
ここに生きているわたし」
(中略)：地球はひとつで
す」という一節には、この
大竹も、空や海、日本全国、
世界、そして宇宙にも繋
がっていることを意識して
ほしいという思いを込めま
した。世の中で起きている
ことも他人事ではなく自分
の問題として受け止めてほ

このまちと、ここで生きる自分を前向きに捉えてほしい。
この歌は今の私の集大成です。

いい、地球の未来は一人ひとりの行動が決めるというメッセージがさりげなく伝わればと思います。
今回のお話をいただいたとき、せっかくなら大竹の皆さんと一緒にやりたい、それでこそ大きな意味があると思う、大竹市民吹奏楽クラブの皆さんに演奏をお願いしました。仕事をされている方がたばかりで、レコーディング時間の確保や、場所選びや段取りなど大変な労力でしたが、それを上回る素晴らしい出来になりました。ひかり児童クラブの子どもたちのコーラスも感動的な仕上がりになっています。
大竹を拠点に活動するようになって10年経ち、その中で音楽との向き合い方も、歌詞や作る曲も変わってきました。多世代の家族の中で暮らし、地域の方がたと密接に関わっているからこそ感じ

る思いがそのまま歌になっていきます。思うようにならないという葛藤も、家がお寺で仏教の教えが身近にあったおかげか、むしろ生きている手応えや喜びとなっていたように思います。今の私の活動の道筋を作ってくれたのは、大竹での暮らしそのもの。だからこの曲は私にとって大竹での10年間の活動、そして大竹に生まれ生きてきた40年間の一つの集大成とも言えます。地元での活動を支えてくれる全ての皆さんに感謝するとともに、これからここでどんな活動ができるのか私自身も楽しみです。
この曲を通して、たくさんの方に「二階堂和美は大竹という土地で胸を張って生きているよ」ということを知ってもらいたいし、皆が自分の住む土地や、そこで生きる自分自身を前向きに捉えることに結びつけばと思っています。

大竹で生きている

作詞・作曲 二階堂和美

おはよう こんにちは こんにちは
今日も あの人の 声がする
明るい笑顔と 笑い声
響きあう このまち
大竹で 生きている
大竹で 生きている
生まれてきたの このまちに
お嫁にきたの このまちに
勤めにきてるの このまちに
めぐりあう しあわせ
みなさん ようこそ こんにちは
今 ここに 生きているわたし
あなたにも つながっています
地球は ひとつです
大竹で 生きている
大竹で 生きている
おお おおお おおたけ
おお おおお おおたけ
おお おおお おおたけ
おお おおお おおたけ
大竹で 生きている
大竹で 生きている
大竹で 生きている
大竹で 生きている
大竹で 生きている
大竹で 生きている



「音楽喫茶おおたけ」 いよいよフィナーレ



Oh!バンブー倶楽部企画 大竹市イメージソングを発表

問い合わせ Oh!バンブー倶楽部(代表 前田携帯☎090-9509-2511)

当日は、「大竹のイメージソング」の発表、大竹の懐かしい写真のパネル展示、ノキサキマルシェも合わせて開催予定です。飲んだり食べたりしながら、週末の夜を音楽とともに過ごしませんか。

と き 9月6日(土) 18時30分～21時

ところ 大竹メディアステーションみくらす1階および隣接駐車場などの大竹駅前付近

出演者
●バグパイパー杉山憲司(スギヤマケンジ)
スコットランドの「ハイランドバグパイプ」を中心に、バグパイプの愛好家の集まり「広島バグパイプ協会」を立ち上げ、各種イベントで活動中。
●MAKI(マキ)
ダンサー、シンガー、詩人として海外でパフォー

マンスしながら、アフリカガーナのダンス、伝統楽器を習得するなど、多彩な活動を展開。

●平成の流し PICORI(ピコリ)
ジャズ・ブルース・クラシック・演歌…どんな音楽が飛び出すか…
何でも不思議なアレンジをするユニットです。



ウエストミュージック ジャンボリー2014

問い合わせ ウエストミュージックジャンボリー実行委員会
<http://west-mj.com>

と き 9月7日(日) 11時～16時
ところ ゆめタウン大竹
内 容 フォーク、歌謡曲、ポップス、弾き語りなどのパフォーマンス



◆編集後記◆

「大竹で生きている」は、明るくて親しみやすい、素敵な曲ですが、何より感動したのは、曲を作る姿勢。二階堂さんとスタッフ、そして大竹市民吹奏楽クラブの皆さんが、良いものを創ろうと限界にチャレンジする姿勢に心を打たれました。前田さんのOh!バンブー倶楽部の取り組みは、楽しいと思うことを実現させていく、その実行力に感心しました。多くの人を巻き込んでいくことで本当の賑わい(にぎわい)が生まれる。駅前が歌であふれる楽しい場所になったら素敵だと思います。

お二人とも、歌を愛し、歌への情熱にあふれた、人としても魅力的な方がたです。過去にも大竹を題材にした素晴らしい歌が生まれました。関わった方がたの熱い想いが込められた、今を生きる私たちの大切な財産です。先人の皆さんが残してくれた素晴らしい調べとともに、今回新しく生まれた歌を、これからの大竹の明るい未来の象徴として、いつまでも歌い、引き継いでいきたいと思っています。



前田 満樹(まえだ まき)

大竹市元町在住。昭和27年生まれ。帽子作家。NPO法人広島ジャンボリープロジェクト理事長。大竹賑わし企画集団「Oh!バンブー倶楽部」代表。高校まで大竹で過ごし、東京の大学に進学。帽子デザイナーとして働く。帰郷後は、帽子製作などのかたわら、フォークソンググループ「メロイエロー」で音楽活動を行う。たくさんの人が楽しめるライブを企画したいという思いから「ミュージックジャンボリー」を主催するなど、精力的に活動中。

「音楽の力でまちを元気に!」をモットーに、「音楽喫茶おおたけ」など、音楽を通じて賑わいづくりに取り組むOh!バンブー倶楽部。代表の前田満樹さん。今回、公募で曲を作ろうと考えたきっかけや、自身の活動への想いなどを聞きました。

私が司会をしているFMはつかいちの番組の「勝手にCMソングを作ろう!」というコーナーで、募集した曲が企業で実際に使用されたりしていて、それが元で大竹市のイメージソングを募集しようと考えました。

曲を作るのか、とても興味があつたのですが、応募があつた曲はしっかり作り込んであり感心しています。9月6日の音楽喫茶で発表するので楽しみにしてください。

私は、両親と一緒に住むために9年前に大竹に戻ってきて、主に広島市を中心に音楽活動をしていましたが、私たちが広島市に出か

けるように、広島市からも大竹市に来てもらえる環境を作れば、駅前も賑やかになるかもしれない。そんな思いから、3年くらい前に駅前のお店の協力を得て音楽喫茶を開催しました。今回の60周年市民提案事業の募集を見て、駅前の賑わいを作りたいと再度思い立ち、空き店舗などを利用したライブの開催を提案しました。ライブハウスのように環境が整っていない場所でも利用できるか、皆さんに喜んでもらえるか不安はありましたが、毎回盛況でびっくりしています。エアコンもない会場も多かったのですが、満員のお客さんが喜んでくださっているのを見て、開催してよかったと感じています。

歌を通じて大竹を知ってほしい。

楽しいと思うことを形にしてまちを賑わ(にぎわ)したいです。



毎回多彩な音楽ジャンル・顔ぶれが登場する「音楽喫茶おおたけ」は、音楽だけでなく、駅前店舗の協力でカフェやバザーを同時開催するなど、誰でも楽しめる趣向に富んだイベントとして人気を呼んでいる。

